

サハリン州運輸事情

2018年11月現在

1 サハリン州政府

サハリン州政府内の運輸関係機関としては、執行権力機関として、「運輸・道路事業省」及び、国家監督機関である「自動機械等国家監督局」が設置されている。

【サハリン州政府ウェブサイト（ロシア語）：<http://sakhalin.gov.ru>】

2 サハリン州の運輸概況

サハリン州は、ロシア極東に位置しロシア国内最大の島であるサハリン島と千島列島（北方領土を含む）を行政管轄し、人口は約48.7万人（2016年1月現在）である。

サハリン島は南北に伸びる細長い島であり、南北方向に約950キロ、東西方向の最狭部で約26キロである。

州都のユジノサハリンスクは人口約19万人で、首都モスクワから距離にして約1万キロ（飛行機で約9時間）、極東の中心地ハバロフスクとは約500キロ（同約1時間半）離れている。

サハリン島及び千島列島は、輸送の面においては海上及び航空輸送に頼らざるを得ないが、夏季は、濃霧、冬季には吹雪により何日も空港が閉鎖されたり、また、流氷の接近により船舶の航行が阻害され、大陸や各島との間の交通が完全に遮断されることがある。

3 航空

主要空港として、州都ユジノサハリンスクに「ユジノサハリンスク（別名：ホムトヴォ）空港」がある。

同空港からは、国際線として、成田、新千歳、ソウルへ定期便が運航されており、成田空港へは、オーロラ航空及びヤクート航空が定期便を運航しており、新千歳空港には、オーロラ航空が定期便を運航している。

国内線として、モスクワ、ハバロフスク、ウラジオストク、ノボシビルスク、ベラゴベシェンスク、ペトロパブロフスク・カムチャッキーの主要都市ほか、オハ、シャウチェルスク、国後島（メンデレーエフ空港）及び択捉島（イトウルプ空港）へも定期便を運航している。

ユジノサハリンスク空港については、現在、空港ターミナル建物の建て替えがされているほか、2014年に択捉島では、これまで使用してきたブレヴェ

スニク空港に代わり、新たにイトゥルプ空港が建設、供与されており、2016年には、夏季の濃霧による航空機の欠航対策として、最新の計器着陸装置（ILSカテゴリー3）が設置されている。

【空港ウェブサイト（ロシア語）：<http://www.airportus.ru/>】

〔写真：ユジノサハリンスク空港〕



4 鉄道

サハリン島内の鉄道は、ロシア鉄道社「極東鉄道サハリン地区鉄道」事務所により運行管理されている。同社はロシア政府が100%株式を保有する株式会社であり、事実上の「国営企業」である。

島内はユジノサハリンスクと島の西岸のホルムスク、南部のコルサコフ、北部のノグリキ等との間に総延長約960キロの鉄道が敷設されている。

島内は鉄道軌間の規格がロシア国内の規格である広軌（1520mm）と異なり、狭軌（1067mm）であることから、大陸側とフェリーを介して往来する車両はホルムスクで台車を交換する必要があること及び現在使用されている鉄道軌道の殆どが太平洋戦争以前に日本がサハリン南部を統治していた際に敷設したものであり、老朽化が進んでいることから、現在、島内では、老朽化軌道の更新及び大陸側と同規格とすべく軌間の広軌化が進められてお

り、軌間の広軌化に伴い、これまで使用してきた狭軌間の鉄道車両が使用できなくなることから、鉄道車両の入れ替えが順次行われている。また現在サハリン島と大陸を横断する横断路の建設プロジェクト案もある。

なお、北方四島内に鉄道はない。

【ロシア鉄道ウェブサイト（ロシア語）：<http://rzd.ru/>】

〔写真：サハリン島内鉄道広軌化の様子〕



5 自動車

（1）道路の状況

島の南部コルサコフからユジノサハリンスクを經由して北部のオハまでの約900キロ、及びユジノサハリンスクと西部のホルムスクを結ぶ約100キロの道路が主要幹線として整備されている他、島内に点在する各都市間を結ぶ道路も整備されている。

都市間を結ぶ道路でアスファルト舗装されているのは、ユジノサハリンスク～コルサコフ～プリゴロドノエ、ユジノサハリンスク～ホルムスク、ユジノサハリンスク～ポロナイスクのみであるが、現在サハリン島を縦貫する道

路のうちポロナイスク以北スミルヌィフまでの間で舗装の拡張工事が行われており、2014年を目処に完了となる見込みであったが、現在も工事が続けられている。

また、アスファルトの舗装道路の一部では、日本企業が技術協力を行い、道路のアスファルト舗装を行っているが、多くの舗装道路が、舗装の質が悪く、凹凸が多い舗装道路が見受けられ、郊外の道路の大部分は未舗装のままである。

このほかユジノサハリンスク市内では、頻繁に発生する停電等による信号の停止、あるいは信号の切替えタイミングの悪さに加え、路上での故障車両による通行の妨げ、あるいは降雨・降雪による影響から等交通渋滞が発生しやすい。また駐車場の整備が不十分なため路上駐車が常であり、これらも交通渋滞の一因であるとともに、冬期には道路の除雪作業に障害となっている。

(2) 交通概要

島南部の自動車交通は比較的活発であるが、島の中部から北部にかけて都市間の距離が遠く、集落も疎らとなり、交通量が極端に減る。

移動の手段としては、バス（大型バスから10名乗り程度のジャンボタクシー様の大きさの物まで多様）が一般的であり、主要都市内の循環バスのほか都市間バスも運行されているが都市間バスは遅延、運休が頻繁に発生している。

市内の循環バスは決まった時刻表はないものの運行台数が多く、10から15分間隔で運行されているため、それほど待たずに利用できる。また市内のみの移動は料金が一律20ルーブル（約40円）と、タクシー料金に比べ相当割安（タクシーの市内移動料金は通常200～500ルーブル程度（400～1000円程度）であるため、市民の普段の足として欠かせない存在である。

更に島内では自家用自動車も普及しており、日本と逆の右側通行ながら自家用車の大部分は日本製の中古車（右ハンドル）である。なお記述のとおり道路の整備が十分ではないことからRV車のような悪路での走破性の高い四輪駆動車両が非常に多い。

6 海運・港湾

島内には主要港として、コルサコフ、ホルムスク、ネヴェリスク港がある。

コルサコフ港は、大陸側のウラジオストク、デカストリ、ソヴェツカヤ・ガヴァニ等のほか、昨年からは、7月から9月の間、コルサコフ港と北海道稚内港を結ぶ定期フェリーが運航されており、ホルムスク港はワニノと通年輸送が行われている。

ネベリスク港は、主に漁業活動に利用されているが、防波堤、岸壁等の港

湾施設は、老朽化が目立ち、防波堤にあっては、ケイソンが壊れ、防波堤の役目をなしていない部分も見受けられる。

また島内には、ポロナISK、ウグレゴルスク、シャフチョルスク、アレクサンドロフスク・サハリンスキー、モスカリヴォ等にも港があり、貨物・石炭輸送、漁業活動に利用されている。

コルサコフ西方のプリゴロドノエには、北部で行われているサハリン・プロジェクトで採掘された石油・天然ガスの搬出基地がある。日本では東京ガス、東京電力、東北電力、北海道電力などの各地のガス・電力会社がサハリン産の天然ガスを購入し、同基地から千葉、新潟、北海道などに所在する各LNG（液化天然ガス）基地にLNGを輸送している。

北方四島では、国後島「ユジノクリリスク」（古釜布）、択捉島「クリリスク」（紗那）、色丹島「マロクリリスク」（斜古丹）にも中・小規模の港があり、サハリン島との間で貨客船による人員・物資輸送が行われている。

この他、択捉島「キトヴィ」（内岡）では2007年より貨客船の離着岸が可能となる埠頭建設が進められてきたが、2013年9月同埠頭の建設作業は略終了しており、2014年から本格運用している。

また、コルサコフ港と日本の稚内港の間には、これまで、日本企業である「ハートランドフェリー」が、夏季（5月～9月）のみ、定期フェリーを運航していたが、採算の問題等から2015年を以て、同社は、同航路から撤退したが、上述のとおり、2016年からは、サハリン海洋汽船（SASC O）がチャーター、運航している「ペンギン33」（総トン数270トン）が、7月から9月までの間、運航されており、2017年についても、夏季に同船を使用して、稚内とコルサコフの間で定期フェリーを運航する予定である。

また、現在、冬季に同船を使用して、稚内港とホルムスク港間を結ぶ定期フェリーを運航しようとの動き及びホルムスク、コルサコフから小樽港に定期フェリーを運航しようとの動きが見られ、現在、日本側関係自治体、企業とサハリン州政府、企業との間で検討が行われている。

〔写真：コルサコフ港外観〕



(了)